

ノ四時青々タルヲ愛テ栽ル者ナリ、竹ニモ雅ニシテ愛スベキ者多シ、棕竹、金絲竹、鳳尾竹、龍絲竹、江南竹等是ナリ、

〔續日本紀元正〕養老五年十月庚寅、太上天皇明元又詔曰、中就山作竈、シユロチク荻棘開場、スデ即爲喪處、又其地者皆殖常葉之樹、タケ即立刻字之碑、

〔北邊隨筆二〕葉守神。

枕草紙に、かしは木いとおかし、葉守の神のますらんもいとかしこしとある、これは拾遺集に、かしは木に葉守の神のましけるをしらでぞをりした、りなさるなといふ歌よりいふなるべし、其後にも、新古今集に、雨中木繁、基俊玉がしはしげりにけりな五月雨に葉もりの神のしめはふるまで、ともみえたり、葉もりの神といふ神は、神書にみえず、これはかしは木の葉のおちぬがゆゑに、葉を守りたまひて、おとし給はぬ神のおはしますらんとていふなるべし、されどかしは木にかざれるは心えがたし、たゞいひならへるにしたがふなるべし、

〔萬葉集十〕秋雜歌詠黃葉。

黃葉之、丹穗日者繁、然鞆妻梨木乎、手折可佐寒、

妹許跡、馬鞍置而、射駒山擊、越來者紅葉散筒、

〔松屋筆記九十五〕モミヂと云字

枿の字をモミヂと訓は、色木の合字にて、いはゆる連歌文字也、類聚名義抄艸部に、蒙蒙芸などの字をモミヂ葉、葉、黃葉、紅葉をモミヂバとよめり、万葉には黃葉をモミヂバ、紅をモミヅなどよみたり、

〔類聚名義抄三〕枿音詭、木黃木、

〔鋸屑譚〕後撰集に